



袖ヶ浦ファクトリー2号棟の外観

## ワコーパレット

# 千葉・袖ヶ浦市に新倉庫を竣工

## 東日本地域向けの戦略拠点に

じて全国の事業者が団結した」と振り返り、「組合に所属する事業者は他のセンターを仲間や家族だと思いつながら、お互いに協力し合って会社の発展につなげてほしい」とエールを送った。また、山野英二前会長も挨拶し、「50年を振り返ると、決して景気が良いと言えない時代もあった。しかし、各センターが団結してきたことで、強固な組織が出来上がった。今後の発展のためには各事業者の社長やセンター長同士がコミュニケーション

ョンを深め、それを全国津々浦々につなげていくことが重要だ」と述べた。

続いて、2023年度の「貢献度グランプリ」の授賞式が行われ、「引越売上実績賞」や「ベスト・センター賞」など各部門において高い実績を誇るセンターや個人、連台会に貢献してきた個人に対して表彰状が贈られた。

また、当日は来賓として小池百合子東京都知事が祝辞を述べたほか、斉藤鉄夫国土交通大臣、全日本トラック協会の坂本克己

会長、東京都トラック協会の水野功会長がお祝いのメッセージを寄せた。記念式典のあとは祝賀会が行われ、引越専門協同組合の中島秀治理事による乾杯の挨拶のあと、会員たちが親睦を深めた。



小池都知事

ワコーパレット（本社・大阪市中央区、川久保篤社長）は1日、同社がレンタル・販売する物流資材の東日本向け物流拠点として「袖ヶ浦ファクトリー2号棟」（千葉県袖ヶ浦市）を竣工した。主力商品であるカゴ台車および6輪台車「スリムカー

務を担う拠点。ワコーパレットでは近年、東日本地域の取り扱いが伸長しており、新施設は今後のさらなる事業拡大をにらんだ戦略拠点となる。

「袖ヶ浦ファクトリー2号棟」は敷地面積約3万2000㎡、建築面積約5800㎡、延床面積約7100㎡の鉄骨造・一部地上2階建てで、倉庫棟と事務所棟を構える。庫内は高床、低床エリアに分かれ、カゴ台車およびスリムカーは約2000台を保管可能。庫内設備は垂直搬送機1基を稼働するほか、トラックベースは4台分を確保し、うち2台分にはドックレベラーを備えてコンテナ搬入にも対応する。

屋根と外壁には断熱材を塗布し、夏場の温度上昇を抑制して電気料金の削減とCO<sub>2</sub>排出量

を抑制。屋根部分は将来的な太陽光発電装置の設置を想定して設計した。また、BCP対策として停電時などでも手動で容易に開閉できるオーバースライダタイプシャッターを採用。このほか、パレット自動洗浄機や自動フォークリフトなどの自動化機器の導入も検討する。

場所は「袖ヶ浦椎の森工業団地」内で、館山自動車道姉ヶ崎・袖ヶ浦ICから至近の立地。団地内には、2019年に開設したパレットとネステナの物流拠点「袖ヶ浦ファクトリー1号棟」が稼働しており、同拠点と連携することで、急激な需要増や繁忙期への対応力を強める。併せて、近接地にはパレットのデポ・ハウス社のデポもあり、同所への横持ち費用削減も見込む。

ワコーパレットがレンタル・販売する物流資材は、創業の地でもある西日本地域での調達が多く、同社の物流拠点「ファクトリー」も、「兵庫オリーブファクトリー」（兵庫県丹波市）

や「春日七日市ファクトリー」(同)など西日本に集中し、資材の洗浄作業もこうした拠点で行われていた。一方で、昨今では東日本向けのレンタル・販売事業が拡大しており、袖ヶ浦ファクトリーに在庫を持つことで、BCP対策や、東日本に向けた輸送費の削減、納品リードタイム圧縮に伴う顧客利便性を向上させる。また、外部倉庫への委託作業を袖ヶ浦ファクトリ

ーへ内製化するとともに、同拠点と埼玉県坂戸市および栃木県小山市に構える既存の外部デポを「ハブ&スポークス」の形で連携させ、物流の最適化を図る。同社は「袖ヶ浦権の森工業団地」内に5区画を所有し、袖ヶ浦ファクトリーの1号棟と2号棟のほか、一部区画をレンタル・販売用の冷蔵冷凍コンテナやドライコンテナの蔵置場としても活用する。さらに、区画内には

新施設の増設用地も残っており、25年度からの次期中期経営計画内で新たなファクトリーの開設も視野に入れる。川久保社長は「当社の西日本と東日本の売上規模はここ数年で逆転しており、東日本は重要なマーケット。袖ヶ浦ファクトリーは東日本を網羅する戦略的な拠点として稼働し、お客様の利便性をさらに高めていきたい」と展望する。 ■